



栄養療法のきほん

～経腸栄養剤 ③病態別経腸栄養剤～

今回は病態別の経腸栄養剤の種類や特徴について確認してみましょう！

各病態に適した経腸栄養剤を適切に選択することで、栄養状態の改善だけでなく、原疾患の病態改善効果も期待されます。ここでは、耐糖能異常、腎不全、肝不全に用いる経腸栄養剤を取り上げます。

【1】 耐糖能異常

当院で採用

◀食品▶ **インスロー**、グルセルナ、タピオンなど

耐糖能異常に用いる経腸栄養剤には脂質の割合を多くして糖質の割合を少なくした栄養剤、緩徐に吸収される糖質(パラチノース、分岐鎖デキストリン、タピオカデキストリンなど)を用いることによって血糖上昇を抑制する栄養剤があります。前者はグルセルナ、後者はインスローやタピオンなどが該当します。炭水化物、脂質、たんぱく質のエネルギー比は栄養剤により異なります。

【2】 腎不全

当院で採用

◀食品▶ **リーナレン LP・リーナレン MP**、レナウエル A・レナウエル 3 など

腎不全に用いる経腸栄養剤は水分、カリウム、ナトリウム、リン、マグネシウムなどの電解質、ビタミン A 含有量などが制限されています。たんぱく質含有量の異なる 2 製品があり、個々の症例の病態から算出されるたんぱく質必要量や腎機能に応じて栄養剤を選択し、組み合わせて用いることが重要となります。

【3】 肝不全

◀医薬品▶ **へパン ED(成分栄養剤)**、**アミノレバン EN(半消化態栄養剤)**

◀食品▶ **へパス(半消化態栄養剤)**

分岐鎖アミノ酸(BCAA)を豊富に含有し、フィッシャー比が高いのが特徴です。肝不全では血中のアミノバランスが乱れ、フィッシャー比が低下します。肝不全用の経腸栄養剤はこのアミノ酸バランスの乱れを是正する効果があり、肝性脳症の改善効果が確認されています。また、**就寝前捕食療法(LES)**としても有用とされています。



病態別の経腸栄養剤は、上記以外に、慢性呼吸不全、周術期、急性呼吸促迫症候群、がん患者に用いる経腸栄養剤などがあります。十分なエビデンスを有している栄養剤は少なく、経過を確認し、評価をしながら使用する必要があります。

当院で採用の経腸栄養剤は医局や各病棟などに設置している**栄養管理資料集**や**電子カルテのエントランス画面**から確認できます！

